

研修医になつたら 必ず読んでください。

診療の基本と必須手技、
臨床的思考法からプレゼン術まで



CONTENTS

序 ～初期研修3回も悪くない～	岸本暢将	3
-----------------	------	---

第 1 章

研修医に必要な心構えです

～臨床研修でいかに効率よく成長するか

岡田正人 10

① 目標を立てて一生懸命やろう	10
② 病棟業務は朝が決め手	11
③ 診療録の書き方とプレゼンのやり方	13
④ 守破離：研修の道	14
⑤ 好かれる研修医になろう	19
⑥ 一貫した態度で礼儀正しく	24
⑦ 同じことを2度言われない	25
⑧ 指導医を目指して：仕事のストレスは量より質	27
⑨ 研修医のための危機管理：いざというときに慌てないように	29

第 2 章

研修医の臨床力を上げます

1

EBMは正しく活用しよう

～そのエビデンスは信頼できますか？

岡田正人 36

① EBMの準備をしよう：医学的常識を備える	36
② 検索エンジンは特徴を把握して活用する	37

③ EBM に振り回されないために	40
④ EBM は治療法の選択のためだけではない	53

2

臨床的判断とは

～最適な診断、最善の治療を行うために

岡田正人 57

① 臨床に 100 % はない！	57
② 診断のパターン	61
③ 外来診療の 12 ステップ	69
④ 症例を 12 ステップでみてみよう	79
⑤ 外来診療の基本的心がけ	83

3

診療コミュニケーションの基本とコツ

～外来診療に必要なテクニックと心構え

岸本暢将 86

① コミュニケーション能力が求められる外来診療	86
② 優秀な医師は技術者であり芸術家である！	87
③ クレームから学ぶ診療コミュニケーション上達法	88
④ コミュニケーションで大事なこと	101
⑤ 外来研修を始める前に必ず読んでください！	103

4

病歴聴取と診察の基本とコツ

～診断に結びつく情報を効率よく得るために

徳田安春 115

① 病歴聴取と診察で 8 割	115
② 病歴聴取で聴くこと、わかること	116
③ 診察で診ること、わかること	122
④ 診療録の書き方のルールとコツ	142
⑤ まとめ	145

5

基本的手技のコツと注意

～これだけは自信をもってできるようになろう！

徳田安春 147

① 初期研修医が習得すべき手技	147
② 中心静脈ライン挿入	147

③ 動脈ライン挿入	160
④ 経口気管挿管	164
⑤ 腰椎穿刺	167
⑥ 各手技すべてに大事なこと	171

6

抗菌薬選択の大原則

～起炎菌の特定と抗菌薬の選び方、使い方

徳田安春 173

① 「細菌感染症＝抗菌薬が必要」ではない	173
② 細菌感染症の診断	174
③ 主な細菌のグラム染色所見	174
④ 血液培養の重要性と採取手順	178
⑤ 抗菌薬選択の基本	180
⑥ 抗菌薬のエンピリック初期選択	186
⑦ 起炎菌別の推奨抗菌薬	188
⑧ 感染症種類別の推奨使用期間	188
⑨ 医療関連感染症への対策	192
⑩ 免疫低下時の感染症	198
⑪ 社会正義として正しい診療を行う	199

第 3 章

研修医に必須のプレゼン術を教えます

1

症例プレゼンテーションの基本とコツ

～必要な情報をいかに正確に短く伝えるか

岸本暢将 204

① 症例プレゼンテーションは医学教育に不可欠	204
② オーラルプレゼンテーションは、医師としての能力を反映する	205
③ 症例プレゼンをする前の準備	206
④ 症例プレゼンとはどういうもの？	207
⑤ 実例でわかる！症例プレゼンで話すこと、省くこと	211
⑥ まとめ	224

① 学会の口頭発表にチャレンジ！	227
② 学会発表に重要な13のコツ	228
③ コミュニケーションの基本：聴衆のCredibilityを獲得する	234
④ 留学のススメ：実際に体験してみないとわからない！	238
⑤ 臨床留学のタイミングを逃すな！	242
 索引	248

Column

勉強のしかた	17
メタアナリシス	39
RCT（ランダム化比較試験）	39
患者さんへの説明	59
記憶に残る患者さん	84
Managed Careとは	86
真の屋根瓦式教育：子曰く、由、女に之を知るを誇えんか	92
夜中の足音要注意！	100
感情労働を患者さんにさせてはいけません！	107
うつ病スクリーニング～SIGECAPS～	112
医者の不養生：時には息抜きを	114
入院患者の発熱時の指示について	124
風邪患者の発熱時の処方について	194
研修医時代にマスターしよう ROS聴取法	215
Body language（ジェスチャー）のコツ	236
どうせ診るなら気持ちよく	240
リトリート（休養日）について	246